

# まちはボクらのワンダーランド



イベントに遊びに行ったら、イベントにも行けるよ

「アート&マート」に遊びに来たら、子どもをまわりの大人が見てくれていると感じ、安心感があり、僕もイベントを楽しめました」と話すのは4歳のお子さんと遊びに来た中村昌史さん。子どもが集まるイベントは確かににぎやかです。しかし、自分が子どもだった頃を思い出してみると、「うるさい」が《面白い》に変化するかも知れません。そんな童心に帰った気持ちを持つだけで自然に笑顔になり、そのあなたの笑顔が周りの親子に安心感を与えるのではないのでしょうか。



成功率90%以上!?  
2mmスマイル



子どもに話しかける時に..

「子どもを見守る時の基本は大人の笑顔。前歯が2mmくらい見えるつもりでいると、子どもは心を開いてくれるからやってみて。」  
この冊子を作成するためのワークショップに参加した田瀬裕水さんから、経験に基づくこんなステキなアドバイスをいただきました。



まちの中に  
子どもの声が  
聞こえると、  
元気になる

子どもの声が聞こえないまちでは寂しい。でも、一方で、「子どもはうるさい」なんて言われてしまうこともあります。

二子玉川商店街で年2回行っている「二子玉川アート&マート」では、子どもたちが道で思い切り遊ぶことができます。

子どもがまちで遊んだり、道路にラクガキしたりする様子を見ると、のびのびとできることの大切さを感じます。

▶協力  
二子玉川商店街振興組合  
青空アート&マート実行委員会  
▶連絡先  
03-3700-7878  
<http://futako-tamagawa.net>



子どもも  
大人も楽しい  
イベントに

二子玉川商店街の橋たかさんに、「二子玉川アート&マート」についてお伺いしました。

「商店街をみんなに好きになってもらいたい。そう思っただけのイベントです。続けるうちに、子どもが居心地良さそうにしている空間は、実は大人だって楽しい場所になると気づきました。」

①いろいろな出来事が起こる楽しさをつくる(大人が落書きを始めた時、落書きを消す掃除だとして「楽しい出来事」になります)。

②《子ども》と《大人》をつなぐ世代の大学生や若い世代を巻き込んで一緒につくるといったことにも気を配っているそうです。

駄菓子屋(おかし屋)の子どもたち

二子玉川商店街振興組合  
理事長 白田幸市さん  
二子玉川商店街の商店会館では、週1回学生中心のグループが「駄菓子屋」を開いています。多世代交流の場として、商店街が会場を提供、学生が運営しています。

子どもたちの楽しみは、駄菓子だけでなく、ボランテニアの大学生とゲームで遊んだり、ものづくりをしたりと様々。自由な遊びをする子どもたちと、それを見守る大人の、バランスの良い関係が生まれているようです。